

## 22. 地下の環境を守るために 井戸と水みち

水みち研究会著

北斗出版（1998）

単行本 A5判(148×210)

p.202 本体価格 2200 円+税



### 目次

はじめに 見捨てられていた井戸、涸れてゆく湧水、地下水、水みちを探る、井戸の価値を見直す

#### 第1章 井戸の話

##### 1.井戸は今も使われている

井戸を調べる、水みちの流れを探る、井戸は神様、お茶がおいしい、墨ののびが違う、水質検査で飲んではいけないといわれて、下水道がない時代の吸い込み井戸、井戸が涸れたら農業はおしまい、井戸水は使えば使うほどよい、いつでもどうぞ、地域に愛される井戸、古い井戸と井戸マークの由来、自噴井戸の跡、修理する人が見つからない、井戸の水はなぜ涸れたのか、井戸を埋めるときは、地下の水と空の水、子どもたちに伝えたい井戸体験

##### 2.井戸掘り職人さんの話

家族総出のチームワーク、井戸の掘り方、井戸の水脈はどこから、怖いのはガスと岩盤、水が上がってきたときに嬉しい、心の浄化につながる仕事、梅とヨシ、後継者はいない、砂の質から水の質を見る

##### 3.井戸をめぐる伝承

立春水と元旦の若水、乾便所に巽井戸、鳥の羽根で水さがし、井戸を掘りあてる名人、真姿に戻った玉造小町、御神木に守られた井戸、不老長寿と若返り、雨乞いと水年貢、蛇と注連縄、弁才天と七福神、<コラム>インドの神々

##### 4.井戸のいろいろ

昔はつるべ、今ポンプ、深井戸と浅井戸、浅井戸の分類

##### 5.災害で見直される井戸

防災は住民の自前の備えから、歴史から学ぶ、被災地の井戸は？、災害対策井戸、もう一つの井戸---雨水利用

##### 6.今、井戸を掘るには

井戸工事店に問い合わせる、井戸新設と法律、井戸の悩みごとQ&A

#### 第2章 水みちの話

##### 1.水みちのしくみ

水みちとは、井戸によってつくられる水みち、湧水によってつくられる水みち、木と水みちは共生している、水みちの合流点にある井戸・湧水、上下方向にも形成される水みち、水みちは細い、人工の水みち、武蔵野台地の水みち、水みちのタイプ

## 地下水ブックガイド

分け、湧水のタイプ分け

### 2.水みちマップづくり

各地区でつくった水みちマップ、国分寺地区の水みち、小金井地区の水みち、調布地区の水みち、三鷹地区の水みち、世田谷地区の水みち、狛江地区の水みち、府中地区の水みち、国立地区の水みち、八地区水みちマップ

### 3.全国各地の水みち

扇状地の水みち、丘陵、山地の水みち、石灰岩地帯の水みち、火山灰地の水みち、低地の水みち、表流水も含めた水みち

### 4.水みちと緑

木と水の関係、緑のダム、土のダム、空の水みち

## 第3章 暮らしと地下水

### 1.豆腐つくりと地下水

豆腐の水分は八割以上、京都の豆腐づくり、多摩地域の豆腐、豆腐屋さんは減っている、〈コラム〉豆腐のつくり方

### 2.京の生麩づくり

京の生麩と水みち、生麩づくりのプロセス、

### 3.お茶と水

緑茶の味をひき出す名水、茶道と水

### 4.そばと水

深大寺のそば、そばと水車、〈コラム〉水の力（幸田露伴「水」より）

### 5.銘酒と名水

酒づくりと水、灘の宮水、伏見の御香水、多摩の酒水、灘と伏見の地下水保全

## 第4章 井戸の水みちの保全

### 1.土壌と地下水の汚染

日本の地下水汚染の現状、有機塩素系溶剤による汚染、府中市の地下水汚染と市民の活動、地下水環境の総合汚染、地下水を飲み続けるために

### 2.空洞化する地下

都会の地下は穴だらけ、水のない川

### 3.緑の保全と地下水の回復

雨水浸透枳の役割と限界、地下水の保全は緑の確保から、水循環のなかの地下水

### 4.水みち研究のはじまり

東京の地下水研究、林床の水みち、地下水汚染と水みち、水循環のルートを示す水みち

### 5.地下の環境と文化を守るために

地下はフロンティアではない、循環資源としての浅い地下水、水みちを手がかりとしたまちづくり、地下環境を知り、保全するために、足元の自然に目を向けて

おわりに 参考文献

## 地下水ブックガイド

### 紹介コメント

著者の「水みち研究会」は湧水や地下水の保全に関心を持つ団体や個人が集まって構成されており、1988年より、東京の武蔵野地域で井戸調査を開始し市民自らが足元の環境を考えてゆくための調査研究活動を行っている。この本は、1992年に出版された「水みちを探る---井戸と湧泉と地下水の保全のために」（けやきブックレット）の続編で前著の後に知りえた情報を加味して作成されたものである。一般向きの本であるが、市民活動としての具体的な水みち調査の活動成果がふんだんに盛り込まれており、その熱意を感じる1冊である。水の文化面についても記載も多く興味が湧く内容構成となっている。